

札幌らしい特色ある学校教育の推進について

報 告 書

平成20年(2008年)12月18日

札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る検討プロジェクト

目 次

○はじめに

○「札幌らしい特色ある学校教育の推進」(概要図)

1	検討経過	1
2	基本的な考え方	1
3	「札幌らしい特色ある学校教育」の推進について	
	(1) 札幌の特色	2
	(2) 「札幌らしい特色ある学校教育」について	3
	(3) 「札幌らしい特色ある学校教育」の推進について	4
	① 札幌らしさの基盤(雪)について	4
	② 未来への基盤(環境)について	5
	③ 学びの基盤(読書)について	5
	④ 相互の関連	6
4	教育課程への位置付けについて	
	(1) 教育委員会の役割	7
	(2) 各学校での取扱い	7
	(3) 市民ぐるみでの取組	7
5	結び	8

○(参考資料)

・「札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る

検討プロジェクト」設置要項

9

は じ め に

札幌市教育委員会では、21世紀という新しい時代に、粘り強くたくましく挑戦し続けることを通して、豊かな創造力を発揮しながら、世界を舞台に活躍できる札幌市民を目指し、学校教育及び生涯学習の視点から、推進すべき教育の方向性を「札幌市教育推進の目標」と「札幌市教育推進の指針」として示しております。

この目標と指針を受け、幼稚園及び学校が取り組むべき内容として、「学校教育の重点」及び「学校教育の今日的課題」を示し、各市立幼稚園・学校において、具体的な教育活動に取り組んできました。

しかしながら、「札幌市教育推進の目標」として掲げた「21世紀を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる市民」を支える「自らの夢や希望に向かってねばり強く挑戦し、努力するたくましい心身をはぐくむ」「自他ともに尊重しともに支え合う思いやりのある心をはぐくむ」「ふるさと札幌に根ざし国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ」の三点のうち、とりわけ「ふるさと札幌に根ざし国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ」については、札幌市らしい教育のあり方を明らかにするために、より具体的にその内容を示すことが目標設定以来の課題でありました。

この課題に応えるべく、このたびの新学習指導要領の実施を前に、ふるさと札幌の自然環境や社会環境、文化的な環境を十分に活かした札幌らしい特色ある学校教育のあり方を検討することといたしました。

この検討に当たっては、教育委員会のみならず、学校関係者など様々な立場からの意見が必要と考え、平成20年6月、園長・校長、保護者代表、教育委員会職員から構成される「札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る検討プロジェクト」を設置しました。

検討プロジェクトでは、6月27日の第1回「検討プロジェクト全体会」の開催以降、3回の「全体会」と4回の「作業部会」を開催し、議論を重ねてまいりました。また、経済人などの有識者や中高一貫教育検討協議会のメンバーを交えた「懇話会」も開催し、さらに幅広い意見をいただきました。

これらの審議を経て、「札幌らしい特色ある学校教育の推進について」の検討結果を取りまとめることができましたので、ここに報告いたします。

札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る検討プロジェクト

委員長 西村喜憲

～ 札幌らしい特色ある学校教育の推進～

札幌市教育
推進の目標

- 21世紀を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる市民
- 自らの夢や希望に向かって ねばり強く挑戦し、努力するたくましい心身をはぐくむ
 - 自他ともに尊重し ともに支え合う 思いやりのある心をはぐくむ
 - ふるさと札幌に根ざし国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ

生きる力の育成 ——— 自立した社会人の育成

自立した札幌人

心の中に「ふるさと札幌」の意識をもちながら、
将来の札幌を支え、世界で活躍する人材の育成

<子ども像>生涯にわたる学びの基本を身に付けるとともに
札幌のまちへの主体的なかかわりを通して学ぶ子ども

具現化

すべての教育活動を通して実現

[幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校]

札幌の特色とは

自然環境

- 冬の厳しさと雪に包まれるまち
- 緑に囲まれた自然豊かなまち
- サケの上る豊かな川のあるまち

人々の
気質・営み

- 進取・自由の精神
- 大らかで広い心

歴史・文化

- 北方の拠点都市として飛躍するまち
- 自然と融合した文化の香り立つまち

魅力あるまち札幌

新たな軸

<1>札幌らしい特色(札幌らしさ)を活かした取組

明確化

- 札幌の気候風土、社会的・人的・文化的環境を活かした体験的な活動

<2>子どもの未来を見すえ、札幌市としてより重点を置く学習活動

焦点化

- 生涯にわたり、学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる活動

「すべての幼児・児童・生徒が共通して取り組む学習活動」

<1>-1 「北国の大都市である札幌らしさを学ぶ」
【札幌らしさの基盤(雪)】

- ・ スキー・スケート
- ・ 雪像、スノーキャンドル作り
- ・ 除雪、排雪等の活動

家庭・地域
と双方向
の連携

<1>-2 「未来の札幌を見つめる」
【未来への基盤(環境)】

- ・ エコ活動(節電・節水・ゴミ分別 エコ行事等)
- ・ フードリサイクル・食育
- ・ 栽培・農業体験

支える

支える

<2>「生涯にわたる、学びのための基盤となる力を身に付ける」
【学びの基盤(読書)】

- ・ 朝読書・一斉読書
- ・ 教科等での読書

* 子どもの生活に根ざし、学校教育としてふさわしい活動を
* 幼～高の発達段階に応じ、体験的に取り組むことができる活動を

「各学校における教育課程上の取扱い等」

- ◆ すべての学校(園)が共通に「札幌らしさの基盤(雪)」「未来への基盤(環境)」「学びの基盤(読書)」の趣旨を踏まえ、教育活動全体との関連を考慮し、主体的に、創意工夫して、教育課程に適切に位置付ける。

1 検討経過

- 6月27日(金) **第1回検討プロジェクト全体会**
 - ・テーマ「札幌らしい特色ある学校教育の推進について」
- 7月10日(木) 30日(水)、8月18日(月)
第1～3回検討プロジェクト作業部会
 - ・テーマ「札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る原案作成」
- 8月29日(金) **第2回検討プロジェクト全体会**
 - ・テーマ「札幌らしい特色ある学校教育の推進に係る原案検討」
- 10月7日(火) **検討プロジェクト「懇話会」**
 - ・テーマ「検討プロジェクト報告書(中間素案)について」
 - ・参加者 長沼 昭夫氏 (株式会社きのとや代表取締役)、
横井 敏郎氏 (北海道大学准教授)
岡部 善平氏 (小樽商科大学准教授、中高一貫委員)
水谷 千佳氏 (消費生活アドバイザー、中高一貫委員)
検討PJ委員12名、中高一貫教育検討協議会委員8名
- 11月5日(月) **第4回検討プロジェクト作業部会**
 - ・テーマ「検討プロジェクト報告書(原案)作成について」
- 11月28日(金) **第3回検討プロジェクト全体会**
 - ・テーマ「検討プロジェクト報告書について」

2 基本的な考え方

これまで、各幼稚園・学校(以下、各学校)におきましては、国の基準としての「幼稚園教育要領」や「学習指導要領」に基づき、また、前述した「札幌市教育推進の目標」をはじめとする本市の教育方針に基づき、教育活動全体を通して、子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、自立した社会人を育成すべく、様々な教育活動に取り組んでまいりました。この「生きる力」をはぐくむという理念は、今回の「新学習指導要領」におきましても、引き継がれております。

札幌市教育推進の目標の一つとして掲げた「ふるさと札幌に根ざし、国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ」は、ふるさと札幌に立脚して「生きる力」をはぐくみ、世界にはばたく自立した市民を育成することを目指すことでもあります。

その具現化のためには、心の中に「ふるさと札幌」の意識をもちながら、将来の札幌を支えたり、世界で活躍したりするような人材としての自立した市民の育成を目指し、各学校が、ともに、これまでの取組に、「札幌らしい特色ある学校教育」という『新たな軸』を加えていくことが必要であると考えました。

そうした新たな軸を加えることによって、札幌の子どもたちに、この

札幌のまちに根ざした豊かな感性や人間性、学びの基盤を身に付けさせ、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を培うとともに、主体的に社会にかかわる、自立した社会人、自立した市民をはぐくむことができるものと考えました。

教育委員会は、平成20年度のスタートに当たり、札幌市としての教育推進の包括的な方針の一つとして、「自立した札幌人の育成」を示しました。これは、そうした「自立した市民の育成」をより一層、「ふるさと札幌」に根ざすものとして強調したものであり、札幌市教育推進の目標と軌を一にするものでありました。

3 「札幌らしい特色ある学校教育」の推進について

(1) 札幌の特色

「札幌の特色とは何か」ということについて、札幌の「自然環境」、「歴史や文化」そして、それらを背景として札幌で生活する人々の「気質・営み」という3つの側面からとらえてみました。

<札幌の特色>

◆『自然環境』

- 冬の厳しさと雪に包まれるまち
～年間降雪量6m超で、人口190万人規模の稀有な大都市
- 緑に囲まれた自然豊かなまち
～藻岩山、手稲山をはじめとした豊かな樹木、生き物の宝庫
- サケの上る豊かな川のあるまち
～豊平川をはじめ、様々な河川による豊かな水

◆『歴史・文化』

- サッポロペックから北方の拠点都市として飛躍するまち
～札幌の礎を築いた先人の営みをもとに、多くの人々が集まり、(文化が融合して)発展する道都
- 自然と融合した文化の香り立つまち
～芸術の森、キタラ、サケ科学館など豊かな自然と調和した文化的施設

◆『人々の気質・営み』

- 進取・自由の精神
- 大らかで広い心

□『市民にとって魅力あるまち』(札幌への愛着)

- 「札幌が好き」という意識(市民の9割。意識調査から)
- (市民以外が)住んでみたい都市No.1(各種調査から)
- 様々な食の宝庫

(2) 「札幌らしい特色ある学校教育」について

このような札幌の「自然環境」「歴史・文化」や「人々の気質・営み」等の特色を、幼稚園から高等学校まで、学校教育の中で、一貫した取組として活かしていくためには、以下の点に、留意する必要があります。

- ① 子どもの生活に根ざし、学校教育としてふさわしい活動であるか。
- ② 幼児→児童→生徒という発達段階に応じて、体系的、そして体験的に取り組むことのできる活動であるか。

検討プロジェクトでは、この2点に留意し、「札幌らしい特色ある学校教育」の内容から、「札幌の特色(札幌らしさ)を活かした取組」と「子どもの未来を見すえ、札幌市としてより重点を置く学習活動」を、札幌市らしい特色ある教育活動として、焦点化し、明確化して示すこととしました。

「札幌の特色(札幌らしさ)を活かした取組」については、まず、札幌の気候・風土から、札幌の四季、とりわけ「雪」を中心とした冬をテーマとして取り上げました。

ほぼ温帯に属する日本は、どこでも四季の特徴がはっきりしておりますが、札幌は、亜寒帯に属し、春は、雪解けとともに一斉に花が咲き乱れ、夏は爽やかで、30度を超える真夏は何日かしかなく、紅葉に彩られる秋はあっという間に過ぎ、冬は、およそ半年も厳しい寒さと雪に覆われます。札幌の人々は、この自然を楽しみ、また、これに立ち向かいながら、札幌人らしい気質をはぐくみ、生活を営んできました。また、美しい自然と、市民の大らかで広い心に接した人々からは、「住んでみたい都市No.1」と評価されています。

そこで、この美しい「自然」と、「魅力あるまち」である札幌を、次世代とともに守るという意味で、札幌の未来につながる「環境」をテーマとして取り上げました。市街地に隣接しながら、豊かな動植物に恵まれ、市民に親しまれている藻岩山をはじめとする多くの山々、大都市札幌の中心部を流れながら、まちを潤し、サケの遡上する豊平川、これらの自然は、天から授かった太古のままの自然ではなく、「カムバックサーモン」の取組など、ふるさと札幌を大切に思う市民ぐるみの環境保護の取組の賜物でもあるのです。

さらに、「生涯にわたり、学び、向上し続けようとする意欲を培う上で、大切にすべき学習活動」については、子どもの未来を見据え、子どもたちが、生涯にわたる学びの基盤となる力を身に付けるという意味から、より重点を置く学習活動として、「読書」を取り上げました。

ある時は子どもの心に根っこを与え、ある時は翼をくれる読書活動によって、心に拠り所、背中に翼をもらった子どもたちは、自分の世界を外へ、

内へと広げていきます。そんな子どもの成長に大いなる助けとなる「読書」を通して、札幌のすべての子どもたちが、札幌に根をもちながら、世界に翼を広げていく助けとなるよう、読書活動の充実を目指します。

(3) 「札幌らしい特色ある学校教育」の推進について

『すべての子どもが共通して取り組む学習活動』

<テーマ>

【札幌らしさの基盤（雪）】～北国の大都市・札幌らしさを学ぶ

【未来への基盤（環境）】～未来の札幌を見つめる

【学びの基盤（読書）】～生涯にわたる学びの基盤を身に付ける

① 札幌らしさの基盤（雪）について

札幌市は、人口190万人規模の大都市であります。その中でも、年間降雪量が6mを超えるという世界的に見ても稀有なまちであるように、「雪」は札幌の大きな特色です。

そして、「雪」は、「札幌らしさ」を学ぶための重要な教材であり貴重な財産です。雪を克服したり、冬・雪を楽しんだりする活動を通して、冬を元気に過ごし、北国の子どもとしてたくましく成長していくための学習活動を、「札幌らしさの基盤」として位置付けました。

実際の学習活動としては、現在も各学校で行われている、スキー・スケートの活動をはじめ、雪像作りやスノーキャンドル作り、そして、除雪活動などが挙げられます。

検討プロジェクトでは、北国札幌ならではの活動として、特に、小学校での、スノーキャンドル作りについて、区役所をはじめとした、学校外の機関や団体との連携で活動が行われている例や、中学校等における、地域の高齢者の家を訪問し、除雪のボランティアを行っている例など、雪をテーマとした活動を媒介として、地域との連携が図られている様子が報告されました。

また、すべての小学校で行われているスキー授業については、小・中・高等学校と連続した学びという観点から話題となりました。

一方、冬期間、雪に覆われる札幌にあっては、身近な除雪は、札幌の「まちづくり」という大きな観点で、重要な活動であるという意見も出されました。

このように、四季がはっきりしている札幌市の特色の中でも、大きな特色である「雪」をテーマとした学習活動を多様な形で展開し充実させていくことが、ふるさと札幌への思いを一人ひとりの子どもの心に刻みつけていくことにつながっていきます。

そして、こうした取組は、将来の札幌を支え、世界で活躍する人材が、いつも「ふるさと札幌」を心に温めつづける、「札幌人」としての原点を形成していくものと考えます。

② 未来への基盤（環境）について

札幌市の素晴らしい自然環境に目を向けていったとき、それらを守り、育てていくということは、札幌の未来を守り育てることでもあります。そうした観点から、「環境」にかかわる学習活動を、「未来への基盤」として位置付けました。

「環境」を守るという観点では、現在「環境教育」というカテゴリーで、様々な活動が行われております。そして、そうした活動の中でも資源を大切にす「リサイクル」をはじめとした、いわゆる「エコ活動」が進められております。

具体的な活動としては、エネルギー消費を節約する「節電・節水」への取組や、学校における一般ごみ、資源化ごみや資源物などの分別や、家庭における燃やせるごみ、燃やせないごみなどの分別などのごみ分別活動、そして、「エコ」を意識し、できるだけごみの排出を減らすように工夫した学校祭などの行事があります。

また、調理残渣や残食を肥料として育てた作物を給食の食材にする「学校給食フードリサイクル」の「食育」、「環境教育」の取組を発展させ、例えば、学校教材園をはじめ、学校の近所や近郊の農家との連携の中で、子どもたち自身の手で栽培を行うなどの活動も想定されます。

こうした「食育」を含んだ、「環境教育」の取組は、まさに子どもが自分の日常生活を通して学ぶ活動であり、その経験は、一人ひとりの生涯にわたって生きる習慣となるとともに、さらには、その活動を通して、自分の命を支える身近な人やまち、産業とのかかわりを深く考え、行動する力を育てていくことにつながっていくものと考えます。

③ 学びの基盤（読書）について

次に、生涯にわたる、「学びの基盤」となる活動として、「読書」を位置付けました。

読書にふれた子どもたちは「知的好奇心」をふくらませ、その「知的好奇心」は、もっと豊かな読書を促します。そうした機会を逃すことなく、たくさんの書籍に親しむ機会を保障することで、「知的好奇心」が持続し、一生涯にわたり、学び続けようとする心が培われていきます。こうした、書籍に親しみ、新しい知識や情報を得たり、心を豊かにしたりする喜びを味わう習慣の大切さは、パソコンやインターネットが発達してきている現代においても変わることはありません。

現在、学校においては、教科等の時間に行われている読書活動をはじめ、朝の読書や一斉読書、図書館ボランティアの保護者や地域の方々による、読み聞かせ活動などが充実してきています。また、学校図書館ボランティア、学校図書館アドバイザーを派遣するなど、子どもたちの学校図書館の有効活用を促進する取組を行っています。加えて、10月9日を「家庭読書の日」と定めて家庭への働きかけを図ったり、児童本等の「リサイクル交換市」を実施し、たくさんの方がより活用されるようにしたりするなど、子どもの読書活動を促進するための取組がはじめられています。

こうした取組は、札幌市の各学校や地域、家庭において、より一層充実されることで、すべての子どもたちが、「読書」を通して、札幌に根ざしながら、世界に翼を広げる力をはぐくんでいくことができるものと考えます。

④ 相互の関連

これら3つの取組は、それぞれ独立して別々のものとして実践されていくものではなく、お互いに関連性をもって取り組まれるものです。

昔から、「大雪の年は豊作」と言われます。これは、雪が冬を越す害虫の発生をおさえ、暖かい布団のような役割を果たすことで大地が守られ、その結果、美味しい作物がたくさん取れる、ということを意味します。

また、山に降り積もった雪は、豊かな森を育てるとともに、雪がもたらす水は、肥沃な大地を通り抜け、魚たちのえさを運び、豊かな海の恵みをもたらすとも言われます。

このことから、札幌の豊かな自然の恵み、涸れることのないおいしい水は、冬がもたらす雪の賜物と言えます。まさに、札幌らしさである「雪」を学ぶことは、札幌の自然がもたらす恵みを共感的に捉え、ふるさと札幌に思いをはせることにつながっていきます。

一方、エコ活動をはじめとした、「環境保護」に係る活動は、まさに、こうした肥沃な大地、豊かな森を守るための活動であり、未来の札幌を守る、大切な活動といえます。

また、札幌の雪がもたらす自然の豊かな恵みは、春の山菜にはじまり、野草、野菜、果物、キノコ、海の幸等々、四季折々に見ることができ、これらを活用した、食育や栽培・農業体験も、未来を見すえた大切な活動です。

「読書」は、こうした身近な生活や体験をもとにした学習に、確かな根柢の「根」と、豊かな発展の「翼」のどちらをも与える「学びの基盤」として、教科等での読書をはじめ、一斉読書、朝読書といった様々な読書活動の取組を充実させていくことが、3つの取組全体を高めていくこ

とにつながるのです。

4 教育課程への位置付けについて

(1) 教育委員会の役割

すべての市立学校と幼稚園が、「札幌らしい特色ある学校教育の推進」の趣旨を踏まえた学習活動に取り組み、その充実を図ることをとおして、共通に「自立した札幌人」の育成を実現していくことが望まれます。

そのため、教育委員会としては、毎年作成・配付している「札幌市学校教育の重点」に、今回の「札幌らしい特色ある学校教育の推進」に係る内容を盛り込み、各学校における教育課程編成に資することが必要です。

(今年度は、21年2月発行予定)

また、各学校において、「雪」「環境」「読書」について、実際に教育課程に位置付け、主体的に、創意工夫した学習活動を構築する際の参考とするため、本年12月発行予定の「教育課程編成の手引」に具体的な活動の例示等を行うことも必要です。

(2) 各学校での取扱い

例示された、「雪」「環境」「読書」に係る学習活動を参考に、各学校において、教育活動全体との関連を考慮しながら、各教科等の教育課程に、適切に位置付けることが望まれます。

想定される学習活動については、以下のような位置付けが考えられます。

- 「札幌らしさの基盤（雪）」
 - ・スキー・スケート ～体育、保健体育、学校行事 等
 - ・雪像、スノーキャンドル作り ～生活科、学級活動 等
 - ・除雪、排雪ボランティア ～社会科、児童会・生徒会活動 等
- 「未来への基盤（環境）」
 - ・エコ活動 ～社会科、家庭科、技術・家庭科、児童会・生徒会活動 等
 - ・フードリサイクル・食育、栽培・農業体験 ～社会科、理科、生活科、家庭科、技術・家庭科、総合的な学習の時間、学級活動 等
- 「学びの基盤（読書）」
 - ・読書活動 ～国語、総合的な学習の時間 等

(3) 市民ぐるみでの取組

このような学習活動は、学校という枠組みの中での活動はもちろんのこと、保護者や地域、ひいては市民ぐるみでの取組が期待されます。

今年度、教育委員会が示した教育推進の包括的方針の中に、「市民ぐるみでの教育の推進」がありますが、これは、家庭や地域をはじめ、市民

とともに札幌市の教育をどう充実させていくか、ということでもあります。

その意味で、真の連携とは、単に学校が地域からの協力をいただくということに留まらず、例えば、学校が地域のまちづくりに寄与する取組を進めるなど、双方向の連携によって実現するものと考えます。そして、そうした連携を通して、地域に根ざした、自立した札幌人の育成が期待できるのだと考えます。

例えば、検討プロジェクトの議論の中でも、冬の活動のスノーキャンダル作りにおいて、地域との連携から生まれた取組についての例が紹介されました。また、「栽培・農業体験」という部分では、近隣の農家との連携で、栽培の活動をとおし、働くことの意義や苦勞を学ぶなど、地域の教育力を活用し、成果を上げている例もあります。

さらに、図書ボランティアの保護者や地域の方による、読み聞かせ活動など、子どもの読書活動の充実にとって、大きな役割を果たしている例があります。

このような、家庭や地域との連携は、市民ぐるみでの教育の推進の基盤となるものです。しかし、家庭や地域の教育力の活用にとどまることなく、さらに一歩進んで、双方向の連携を図っていくことが必要です。

実際に、学習活動を構築する中に、「家庭や地域との双方向の連携」という視点を加えることが、「自立した札幌人の育成」、ひいては、現在、さらに将来にわたる「札幌のまちづくり」へとつながっていくことになるものと考えます。

5 結び

ふるさと札幌で育ったことを心に根付かせながら、国際社会で活躍する自立した社会人を育成していくためには、札幌の自然環境や社会環境、文化的な環境の中で、その環境を十分に活かした体験や学習活動をさらに充実していくことが必要です。「札幌らしい特色ある学校教育」の実現のために、全体会、作業部会と回を重ね、加えて、幅広い意見をいただいた「懇話会」での意見交換も含め、有意義な審議の成果が、この報告書に結実しました。

今後、この報告書の内容をもとに、各学校において、札幌らしい特色ある学校教育が推進され、「自立した札幌人の育成」に向けた、具体的な学習活動が充実することを願ってやみません。